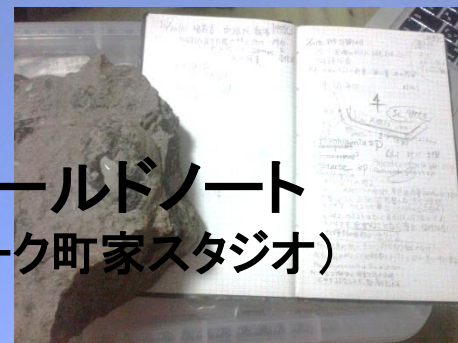


2015年度JCAS次世代ワークショップ企画自由課題・自由開催枠
企画責任者：梶丸岳（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター）



学際的コミュニケーションツールとしてのフィールドノート

ワークショップ開催予定日：2016年3月5日（京都リサーチパーク町家スタジオ）

【趣旨】

フィールドワーカーはフィールドノートをつける。本企画はこの素朴な事実に着目し、多彩な分野の研究者がそれぞれのフィールドノートを持ち寄って、フィールドノートを書く/描く手法やその研究上の意味を発表・討論する。これを通して、地域研究におけるフィールドノートの可能性を考察する。さらにフィールドノートのコミュニケーションツールとして側面に着目し、ノートを紹介して研究者間のみならず研究者と一般市民をつながる可能性について検討する。



現地の人びととのあいだをつなぐコミュニケーションメディアとしてのフィールドノート

山口未花子（生態人類学，岐阜大学）

丹羽朋子（文化人類学，人間文化研究機構）

フォーマットの決まったフィールドノートのスタイルとその応用

安永数明（気象学，富山大学）

阿児雄之（文化財科学，東京工業大学）

多彩な記録媒体の総体としての現代「フィールドノート」と「記録」すること

小森真樹（ミュージアム研究，東京大学）

フィールドノートと研究の地域還元

平田正礼（古生物学，隠岐世界ジオパーク）

【コメンテーター】

角南聡一郎（民俗学・考古学，元興寺文化財研究所）

村尾るみこ（地域研究，立教大学）

※本企画は『フィールドノート古今東西』（椎野若菜・丹羽朋子・梶丸岳編、古今書院より近刊予定）の発展企画に位置づけられる。